

Genspark 創業者インタビュー徹底調査

「AI の勝負はモデルでは終わらない」を検証する

2026 年 8 月 30 日

Claude Opus 5

0. 調査対象と本報告書の位置づけ

本報告書は、Yahoo!ニュース配信記事「AI の勝負はモデルでは終わらない、Genspark 創業者が描く「次の AI サービス」の条件」（2026 年 8 月 30 日配信、記事 ID: bfde0325…）を対象に、記事の出所、主張の内容、その事實的裏付け、および批判的評価を検証したものである。

配信元は Forbes JAPAN、執筆は同誌編集部 of 安井克至。2026 年 7 月 21 日に東京都内で開催された Genspark 「AI ワークスペース 6.0」発表会 of 取材シリーズの一本と特定される。同シリーズには「AI は賢くなった、だが“文脈”は持っていない」¹および「これから 3 年間で 1 億ドル投資」²が含まれる。

【検証上の制約】 対象 Yahoo 記事本文は Yahoo 側の robots 制限により直接取得できず、Forbes 原記事の個別 URL (detail 番号) も特定に至らなかった。ただし媒体・執筆者・取材イベントの同定は高い確度で確認できた。以下で整理する中核主張は、同シリーズ本文および同時期の CEO/CTO 発言の一次・二次報道から再構成したものである。

1. 結論（要旨）

- 中核主張は「フロンティアモデルの性能はトップ層で拮抗し差が見えにくくなった。勝負は『どのモデルが優れているか』ではなく『どの作業に最適なモデルを選び、完成した業務成果を届けるか』に移る」というもの^{5,6}。この主張自体は、a16z (マーク・アンドリーセン) や Sequoia が 2025~2026 年に示した「モートはモデルではなくアプリ層にある」という有力な業界コンセンサスと整合しており^{25,26}、単なるポジショントークとは評価できない。
- Genspark の事実関係は堅い。MainFunc Inc. (2023 年 12 月、米パロアルト設立)。ARR はローンチから 12 カ月で 0→2.5 億ドル⁷、企業評価額は 2026 年 6 月に 26 億ドル、累計調達 6.45 億ドル、社員約 70 名と極めて高い資本効率を示す⁷。日本は米・韓と並ぶ最重要市場で、日本法人を 2026 年 1 月設立¹⁷、3 年で 1 億ドル投資を表明^{2,3}。

- ただし「所詮ラッパーではないか」という批判は依然として実在するリスクであり、額面通りには受け取れない。Trustpilot 評価は 1.6/5 でレビュー約 112 件のうち約 84%が星 1 つ²¹。同社の「堀」は現時点でモデルではなく、①複数モデルの評価・オーケストレーション技術、②日本語ドキュメント文化への最適化、③2026 年投入の記憶レイヤー「SecondBrain」によるコンテキスト蓄積、④先行導入企業基盤に依存している。

2. 中核主張「モデルでは終わらない」の内容

Eric Jing (CEO) および Kay Zhu (CTO) の主張は、次の五要素に整理できる。

(1) モデルはコモディティ化する

CTO は、現在の最上位 AI モデルはほとんどが非常に高い水準に達しており一般ユーザーが違いを区別するのは難しい段階にあり、重要なのはどのモデルが優れているかではなく、どの作業に最適なモデルを選ぶかだと述べている⁶。

(2) 「F1 マシン対ファミリーカー」の比喻

フロンティアモデル企業は「F1 マシン」（速く賢いが高コストで運転しにくい）を作る。Genspark は日常業務向けの「EV／ファミリーカー」を目指す、という位置づけである⁵。

(3) 価値は「評価とオーケストレーション」にある

Genspark の本質は各社が作る AI を評価し、コストと賢さの両面で最適に使い分けることにあるとされる。60~70 以上のモデルを「Mixture-of-Agents」方式で自動選択し、同じ処理に 10 倍のコストがかかるモデルを使う必要はないとする^{5,6}。上位プランで特定バージョンをあえて選ぶ場合があるのは、ベンチマーク上の最新性ではなくループ耐性やエラー回復力といった実務上の安定性を優先するためだと説明されている⁵。

(4) 成果物志向 (One Prompt, Job Done)

AI チャットボットは会話を提供したが仕事はなくならなかった、という問題意識のもと、意図を述べれば完成した成果物（役員会向けスライド、財務モデル、Web アプリ等）が返る体験を目指す^{5,14}。

(5) 次の条件は「コンテキスト」

2026 年 7 月の「SecondBrain」（記憶レイヤー）により、毎回前提を入力し直す分断を解消する。普段どおりの業務を通じてデータが蓄積し、文脈を踏まえた出力が可能になるという構想である^{1,18,20}。

3. 会社および創業者の基本事実（確認済み）

3.1 法人・創業者

- 法人：MainFunc Inc.、2023 年 12 月に米カリフォルニア州パロアルトで設立。シンガポール、東京にもオフィスを置く^{11,17}。
- Eric Jing（景鯤／CEO）：Microsoft Bing 創設メンバー、その後 Baidu 検索 CPO、スマートデバイス子会社 Xiaodu（小度）CEO^{11,31}。
- Kay Zhu（朱凱華／CTO）：2011 年に Google で深層ニューラルランキングを本番投入¹¹。
- Wen Sang（COO）：MIT 博士、Y Combinator／Khosla 支援の Smarking 創業・Exit¹¹。

なお、両創業者は Baidu 出身だが、公式サイトは Microsoft／Google／Meta／Pinterest 出身を前面に出し Baidu への言及を避ける傾向があるとの指摘がある²⁴。これは分析者の観察であり、同社の公式説明ではない。

3.2 プロダクトの時系列

時期	出来事
2024 年 6 月	AI 検索エンジンとしてローンチ（Sparkpages、約 500 万ユーザー） ¹⁵
2025 年初頭	検索を停止しエージェントへピボット ¹³
2025 年 4 月 2 日	Super Agent 公開 ¹⁶
2025 年 4～5 月	AI Slides（4/22）、AI Sheets（5/8）、AI Workspace 1.0
2025 年 8 月	AI Slides 2.0、AI Pods 等
2026 年 1 月	AI Workspace 2.0／日本法人設立 ¹⁷
2026 年 3～4 月	Workspace 3.0（Genspark Claw）、4.0（Claw for Desktop）
2026 年 7 月	Workspace 6.0（SecondBrain／GenTeam／初のハードウェア SecondBrain Note） ^{18,20}

3.3 資金調達の推移

ラウンド	時期	調達額	ポストマネー評価額	主要投資家・出典
シード	2024 年	約 6,000 万ドル	2.6 億ドル	Lanchi Ventures リード ^{10,11}
シリーズ A	2025 年 2 月	1 億ドル	5.3 億ドル	Reuters 報道ベース（関係者筋） ¹²
シリーズ B	2025 年 11 月 20 日	2.75 億ドル	12.5 億ドル	Emergence Capital リード ^{8,13}
B 拡張（第 1 次）	2026 年 3 月	累計 3.85 億ドル	約 16 億ドル	Business Wire ⁹
B 拡張（第 2 次）	2026 年 6 月 17 日	累計 4.85 億ドル	26 億ドル	Sozo Ventures、Korea Mirae Asset、UpHonest Capital ⁷

累計調達額は 6.45 億ドル（Emergence Capital Partners、LG、SBI、UpHonest、Sozo Ventures、Temasek の Pavilion Capital 等）⁷。なお「累計 5.45 億ドル」は 2026 年 3 月時点の旧数字であり、現時点では更新されている点に注意を要する。

3.4 成長指標

- ARR：ローンチから 12 カ月で 0→2.5 億ドル⁷。中間マイルストーンは 5 カ月で 5,000 万ドル¹³、9 カ月で 1 億ドル、11 カ月で 2 億ドル。
- 企業顧客：「Genspark for Business」ローンチから 6 カ月で 6,000 社超⁷。日経報道では 7 月時点で 7,000 社超³。時点差による更新であり矛盾ではない。
- 社員数：約 70 名⁷。ARR 規模に対する人員効率は際立って高い。

4. 日本市場との関係

- Genspark 株式会社を 2026 年 1 月 28 日に設立（東京都港区）^{17,19}。米国・韓国と並ぶトップ 3 市場と位置づけられ、2026 年から TVCM を放映。
- 全世界 6,000 社超の顧客のうち 2,500 社が日本企業とされる⁵。NTT データ、パナソニックコネクト、SBI インベストメント、世田谷区などが導入¹⁹。
- 3 年間で 1 億ドル（約 150 億円）を日本に投資すると表明^{2,3}。

- 日本語のドキュメント（プレゼン・スプレッドシート）作成需要が特に強く、日韓で支持を得ている⁴。

日本メディアがこのインタビューを相次いで掲載した背景は、同社の日本重視の広報戦略（日本プレス向け発表会、TVCM、SBI 等の日本投資家参加）の反映と解される。これは分析であり、同社の公式説明ではない。

5. 批判的検証

5.1 ラッパー批判

Genspark は AI モデルを自社開発せず、OpenAI/Anthropic/Google 等の API に依存する。「単一プロバイダ依存は堀ではなく負債」「純正機能が出れば差別化は一夜で消える」という一般論的批判が該当し得る^{27,28}。

これに対する反論の論理は二つある。第一に、複数モデルを横断評価できるのはモデル提供者自身には構造的にできない（OpenAI は Claude を使えない）。第二に、ワークフロー統合とデータ蓄積が堀になる、というものである^{5,14}。ただし後者は現時点では将来仮説であり、実証されたとは言い難い。

5.2 ユーザー評価の乖離

X/LinkedIn 上では絶賛される一方、Trustpilot は 1.6/5 でレビュー約 112 件のうち約 84% が星 1 つとなっている²¹。苦情はクレジット消費（失敗タスクにも課金）、不透明な年額課金、サポート不在に集中する^{21,23}。「無制限」表記が実際には時間上限や期間限定である点も批判対象となっている²²。

留意点として、Trustpilot 評価には自己選択バイアス（不満層が投稿しやすい）が働く。数値をそのまま製品品質の代理変数とみなすことはできない。

5.3 競合環境

Manus（最も近い自律エージェント）、Perplexity（引用付き検索で優位）、ChatGPT Agent、Claude、Google Gemini（長文脈）が競合となる²⁹。各機能は専用ツールに個別には劣るとの評価（スライドは Canva 未満、アプリビルダーは Lovable 未満等）もあり、「多くをこなすが何も完璧に極めていない」という指摘がある^{22,23}。

6. 業界的な位置づけ（分析）

Jing/Zhu の「モデルではなくアプリ層・評価層に価値が蓄積する」という主張は、2025～2026 年の VC 業界の主流論と強く共鳴する。Sequoia は 2025 年の AI Ascent で価値はアプリ層に蓄積すると

し、service-as-a-software を掲げた²⁵。a16z のマーク・アンドリーセンは 2026 年 1 月の LP ミーティングで、モートはモデルそのものではなくその周辺に築くものだと述べている²⁶。つまり Genspark の主張は自社正当化であると同時に、有力な投資家コンセンサスを代弁している。

一方で、同じ論者たちが強調する留保も重要である。モデルがコモディティ化すれば顧客も原価下落を知るため、アプリ層の-margin も圧縮され得る。真の価格支配力を持つのは「ワークフローのロックイン」か「独自データのループ」を持つ企業だけ、という指摘^{26,27}は、Genspark の持続可能性を測る最良の物差しとなる。

7. 無形資産・堀の評価（知財・無形資産の観点）

模倣困難な資産の候補を評価すると、次のように整理できる。以下は本報告書の評価であり、確認済み事実ではない。

堀の候補	性質	評価
モデル評価・ルーティング技術	技術・ノウハウ	一定の技術的堀。ただしモデル提供者や競合（Perplexity も複数モデルをオーケストレーション）が追随可能で、決定的な独占性は弱い。
日本語ドキュメント最適化・ブランド	市場先行・ブランド	日本市場では実質的な先行者優位。TVCM・行政導入・2,500 社基盤は短期的な堀。ただし言語・体裁の最適化は本質的に模倣困難とは言い切れない。
SecondBrain（データ／コンテキスト）	データ資産	最も有望な堀候補。企業のメール・会議・CRM 横断の永続メモリは、蓄積するほどスイッチングコストを生む。ただし 2026 年 7 月投入で実効性は未検証、かつ社外秘情報の扱いという導入障壁を伴う。
ワークフローのロックイン	顧客関係	Cursor が示したような業務への深い埋め込みに相当する部分は発展途上。

総合すると、「モデルでは終わらない」という主張は方向性として正しいが、同社が実際に確保できている堀は「評価技術＋日本での先行＋顧客基盤」であり、最も本質的な「データ／ワークフローの堀」（SecondBrain）はまだ構築途上であると評価できる。

主張の一貫性

Jing 氏の主張は 2024 年 6 月の TechCrunch 取材（複数の専門モデルを用いた外科的アプローチで高品質な結果を出す旨）から一貫して「マルチモデル・オーケストレーション」を核にしている¹⁵。検索

→エージェント→ワークスペース→記憶レイヤーとプロダクトは大きくピボットしたが、単一モデルに賭けず評価・組み合わせるという思想は創業時から不変であり、この一貫性は主張の信頼性を高める材料といえる。

8. 実務的示唆

導入検討者（日本企業）

まず無料枠でスライド／シート生成を実業務で試し、①エクスポート後の編集性、②クレジット消費の実測、③SecondBrain に読ませてよい情報範囲の社内ポリシー、の三点を検証してから有料・全社契約へ進むことが妥当である。課金トラブルの報告が多いため、年額契約は特に慎重を要する^{21,23}。

投資家・競合分析

注視すべき閾値は、(1) ARR 成長の持続（2.5 億ドルからの伸び率鈍化が最初の警戒信号）、(2) 企業顧客のネットリテンション、(3) OpenAI／Anthropic／Google 純正ワークスペースの機能追撃度、の三点である。これらが崩れれば「ラッパー消滅」シナリオが現実味を帯びる。逆に SecondBrain のデータ蓄積が定着すれば堀は本物になる。

9. 留保事項（Caveats）

- 対象 Yahoo 記事本文の直接取得は robots 制限で不可、Forbes 原記事の個別 URL も未確定（媒体・執筆者・取材イベントは高確度で同定）。中核主張は同シリーズ・同時期の CEO／CTO 発言から再構成した。
- 資金調達・ARR・顧客数は Genspark／Business Wire 公式発表と各報道に基づく。シリーズ A（1 億ドル／5.3 億ドル）は関係者筋ベースで公式単独発表は未確認¹²。ARR・評価額は非上場企業の自己申告要素を含み、独立監査されていない。
- Trustpilot 評価（1.6／5）は自己選択バイアスを含む点に留意²¹。
- 中国系資本（Lanchi＝旧 BlueRun Ventures China）の初期関与と、公式発表での非言及の齟齬がある。地政学的配慮の可能性はあるが確証はない²⁴。
- 一部モデル名・バージョン呼称は 2026 年時点の記事記載に基づくが、モデル世代の呼称は流動的である。
- 本報告書における「評価」「分析」と明記した箇所は執筆者の推論であり、確認済み事実と区別される。

参考文献

※ 文中の上付き番号は下記の文献番号に対応する。URL は 2026 年 8 月 30 日時点で確認したもの。有料記事（日本経済新聞等）は本文全体を確認できていない場合がある。

- [1] Forbes JAPAN（安井克至）「AI は賢くなった、だが“文脈”は持っていない、Genspark 6.0 が「SecondBrain」で変えようとする仕事の流れ」2026 年 8 月 28 日
<https://forbesjapan.com/articles/detail/103708>
- [2] Forbes JAPAN「これから 3 年間で 1 億ドル投資、Genspark が日本市場に描く成長戦略」Yahoo!ニュース転載
<https://news.yahoo.co.jp/articles/6656e41ea9c1e3491208f6e246cf79d4bdf6990c>
- [3] 日本経済新聞「米 AI 新興 Genspark トップ「世界で 7000 法人が利用、日本で 1 億ドル投資」」2026 年 7 月
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC218PT0R20C26A7000000/>
- [4] 日本経済新聞「Genspark、AI スライド資料で日韓席卷 次の一手はメールとボイレコ」2026 年 7 月
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC230SK0T20C26A7000000/>
- [5] Impress Watch／西田宗千佳「最新モデル＝最善ではない 急成長「Genspark」が目指す AI 時代の機能・組織」2026 年 6 月 29 日
<https://www.watch.impress.co.jp/docs/series/nishida/2120628.html>
- [6] BigGo ファイナンス「「AI モデルより体験」…Genspark、企業価値約 4,200 億円で「AI ワークスペース」時代を切り開く」2025 年 11 月
<https://finance.biggo.jp/news/3bdcdbc9-50ef-42be-96e7-bf956b27eb43>
- [7] Business Wire／Yahoo Finance “Genspark.ai Extends Series B to \$485M at \$2.6B Post-Money Valuation, Appoints Jamison Powell as Chief Revenue Officer” 2026 年 6 月 17 日
<https://finance.yahoo.com/technology/ai/articles/genspark-ai-extends-series-b-131000248.html>
- [8] VC News Daily “Genspark Completes \$275M Series B Round” 2025 年 11 月 20 日
<https://vcnewsdaily.com/genspark/venture-capital-funding/mqzvqqlpx>
- [9] The SaaS News “Genspark Extends Series B to \$385M at \$1.6B Valuation” 2026 年 3 月
<https://www.thesaasnews.com/news/genspark-extends-series-b-to-385m-at-1-6b-valuation/>
- [10] The SaaS News “Genspark Secures \$60 Million in Seed Round”
<https://www.thesaasnews.com/news/genspark-secures-60-million-in-seed-round/>
- [11] Reuters／Yahoo Finance “AI search startup Genspark raises \$60 million in seed round to challenge Google” 2024 年
<https://finance.yahoo.com/news/ai-search-startup-genspark-raises-154925342.html>
- [12] Yahoo Finance “Genspark AI raises \$100m in Series A funding” 2025 年 2 月
<https://finance.yahoo.com/news/genspark-ai-raises-100m-series-124627310.html>
- [13] THE BRIDGE「AI ワークスペース Genspark が評価額 12.5 億ドル（約 1,875 億円）に——検索からピボ

ット 5 カ月で ARR5,000 万ドル達成、日本拠点も」 2025 年 11 月

<https://thebridge.jp/2025/11/genspark-series-b-275m-funding>

[14] Emergence Capital “Genspark: The Ultimate System of Context”

<https://www.emcap.com/thoughts/genspark-the-ultimate-system-of-context>

[15] TechCrunch “Genspark is the latest attempt at an AI-powered search engine” 2024 年 6 月 18 日

<https://techcrunch.com/2024/06/18/genspark-is-the-latest-attempt-at-an-ai-powered-search-engine/>

[16] ITmedia AI+ 「AI エージェント「Genspark Super Agent」登場 中国「Manus」より高性能うたう」 2025 年 4 月 4 日

<https://www.itmedia.co.jp/aipplus/article/2504/04/1250404119/>

[17] ITmedia AI+ 「AI エージェント「Genspark」、日本法人設立 国内展開を本格化」 2026 年 1 月 28 日

<https://www.itmedia.co.jp/aipplus/articles/2601/28/news145.html>

[18] ASCII.jp 「シリコンバレー発の次世代 AI ワークスペース Genspark | クラウドメモリー「SecondBrain」等を含む「AI ワークスペース 6.0」を発表」 2026 年 7 月

<https://ascii.jp/elem/000/004/421/4421051/>

[19] 事業構想オンライン 「AI エージェントで最速ユニコーンの米 Genspark 日本市場へ本格参入」 2026 年 1 月

<https://www.projectdesign.jp/articles/news/87d48960-8170-44e4-a0d3-516b4bc9abb5>

[20] CoRRiENTE.top 「Genspark 「AI ワークスペース 6.0」 発表。仕事のデータを蓄積する「SecondBrain」や AI ボイスレコーダーを搭載」 2026 年 7 月

<https://corriente.jp/genspark-6-0-launch-event-report/>

[21] eesel AI “The 8 best Genspark AI alternatives in 2026”

<https://www.eesel.ai/blog/genspark-ai-alternatives>

[22] All About AI “Genspark AI Super Agent Review 2026: Is It Worth the Hype?”

<https://www.allaboutai.com/ai-reviews/genspark/>

[23] Salesdorado “Does GenSpark really replace 5 AI subscriptions? Review 2026”

<https://salesdorado.com/en/ai/review-genspark/>

[24] hellochinatech “How Chinese AI Startups Build American Identities: Genspark”

<https://hellochinatech.com/p/genspark-identity-squeeze>

[25] Sequoia Capital (Inference) “AI’s Trillion-Dollar Opportunity: Sequoia AI Ascent 2025 Keynote”

<https://inferencebysequoia.substack.com/p/ais-trillion-dollar-opportunity-sequoia>

[26] The AI Corner “The AI moat is not the model. Marc Andreessen on why AI gets more expensive as it commoditizes.” 2026 年

<https://www.the-ai-corner.com/p/marc-andreessen-ai-moat-not-the-model-2026>

[27] Forgepoint Capital “Margin of Safety #17 – Wrappers vs Foundational Models”

<https://forgepointcap.com/perspectives/margin-of-safety-17-wrappers-vs-foundational-models/>

[28] DEV Community “AI Wrappers Are Dying: Why Most AI Products Fail”

<https://dev.to/damir-karimov/ai-wrappers-are-dying-why-most-ai-products-fail-ano>

[29] Manus “The 5 Best AI Agents for Your Desktop in 2026”

<https://manus.im/blog/best-ai-agents-for-desktop>

- [30] Tomorrow Desk “Genspark AI: The Agentic Workspace That Became a Unicorn”
<https://tomorrowdesk.com/thought/genspark-ai>
- [31] Eric Jing (景鯤) 公式 X アカウント
https://x.com/ericjing_ai
- [32] Medium／Gil Pignol “What the Mobile Era’s Winners Reveal About Where AI Value Will Accrue” 2026 年 4 月
<https://medium.com/@gp2030/what-the-mobile-eras-winners-and-losers-reveal-about-where-ai-value-will-accrue-1e2d51773b8c>